

# 体育科における表現運動・創作ダンスの効果的な指導に関する研究

——Basic Laban Study (Choreological Study) 導入の可能性について——

小 松 恵理子

## 1. はじめに

限られた時間で指導者としての資質を身に付ける必要に迫られている教員養成課程の学生に効果的な指導法を身に付けてもらうための内容の精選は、筆者等に課せられた大きな課題である。

また、幼稚園から高等学校までの教育現場でも価値は認めるもののその指導は困難なものとして敬遠されがちである。

そこで、「舞踊の効果的な指導法」の課題で一年間学ぶ機会を得た英国でのナショナルカリキュラムやLaban Centre for Movement and Danceでの受講科目から得られた示唆は先報において報告した。本報は引き続き、実践的内容を取り上げたい。ここではラバン理論の根幹を学ぶ授業としてのBasic Laban Study (Choreological Study I・II)を中心に、その内容の概観やそこから導き出された方法が、指導者としての資質の向上や教育現場での表現・創作ダンスの効果的な指導法として適応か否かその可能性を探ることを目的とする。

## 2. ラバン・センターにおけるBasic Laban Study (Choreological Study I・II)の概要

学生に準備されたシラバスには以下のように内容が紹介されている。

「Choreological Study (創作法—舞踊の構造分析)として知られている身体に関する知識は1982年以来、ラバン・センターにおいて開発され、公式には、1987年運動研究、ダンス分析、記譜法を含んだダンス原理として確立された。

その主たる焦点は、ダンスの哲学的研究でもなく、社会学的、心理学的でもなく、ダンス自身のシステムを通しての本質的研究である。これらダンス媒体研究は運動、運動を起こすダンサー、音、空間などを中心としている。その結果Choreologicalな手続きはダンサー自身のダンス経験、踊られた運動の内容や形式に関することを知らせることや、創作方法や構造分析、著作や視聴覚両方のダンス素材の表記方法に関することを知らせることを目的としている。それは、理論と実践の統合であり、分離して考えられないものである。<sup>1)</sup>」

〈レベル I〉

TERM 1 : 「ダンスの基本要素である MOVEMENT について学ぶことにその中心が置かれており、その構造を深く研究する。MOVEMENT は何から構成されているか。その主たる要素は

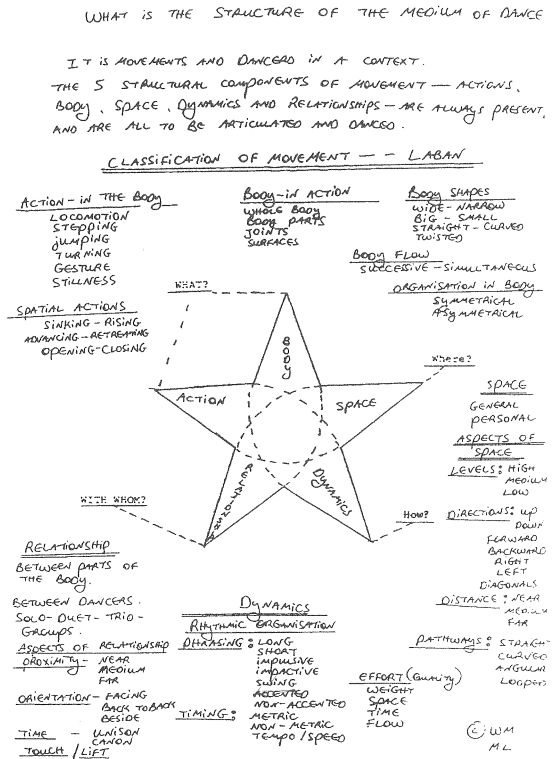
何か。このことを理解することが、いかに運動の創造と演技に  
適応できるのかなどについて考  
える。」<sup>1)</sup> 創作理論の中核でもあ  
り、教育方法としても有効な手  
立てとなると考えられる。

— 具体的内容 / 図 1 に示すよ  
うな MOVEMENT を構成する  
5 要素<sup>5)</sup> 「Action / 動作」  
「Body / 身体 の 部 位 や 形」  
「Space / 個 を 中 心 と し た 向 き  
や 形」 「Dynamics / リズム や エ  
フォート ( エ ネ ル ギ ー の 量 )」  
「Relationship / 四肢 と 体 幹 の  
関 係 や ダ ン サ ー 間 の 関 係 」 に 含  
ま れ る 用 語 に つ い て 解 説 が あ  
り、その内容をもとに動き作り  
の 実 習 を す る と い う も の で あ  
つ た。また、基礎的なノーテー  
ションの紹介 (モティーフライ  
ティング・Ch. U/M.m 等)  
もなされた。(図 2, 3)

— 試験内容 / ① 指導者から与えられた運動シーケンスを習得し、5 要素を用いて分析する。その原形をもとに各自の考えを反映させたバリエーション (ソロ) を創作する。  
② パートナーと共に、お互いのソロからの運動素材を組合せ、デュエットを創作し、特に関係性を分析しておく。試験当日一人が原形を踊る隣で自分のソロを踊る。その後、デュエットを披露する。その後どのように変化・発展させたか、デュエットを構成したかについて試験官の質問に答えるというものであった。

TERM 2 : 基本的媒介変数から、様々な Choreographer が運動素材を彼らの独特の創作目的とどのように統合するのかを検証することへ移る。創作された運動と明確にされた空間との間にもどのような関係があるのか。運動の形式とその内容との間にもどのような関係があるのかを考察する。<sup>1)</sup>

— 具体的内容・「運動」以外の媒体も加えた舞踊媒体の全般についての講義・実習が行われた。TERM 1 の知識を基にニジンスカの「レ・ノース」を用い、運動素材の分析に始まり、シンボルの考え方、空間・ミニマルチェンジやレピティションなどの創作手法、作品の歴史的背景などの作品の内容と運動形式についての解説と討論が行われた。



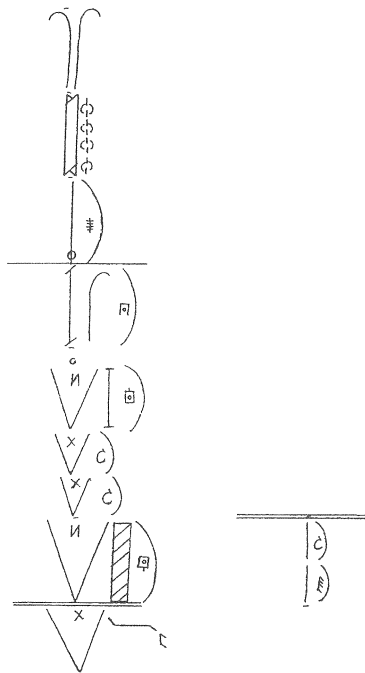
(図 1)

UNITS OF ACTION (1) primitive forms of Labanotation

- | MOVEMENT TAKE PLACE, A HAPPENING ACTIVITY UNSPECIFIED.
- NO MOVEMENT TAKES PLACE, HOLDING STILL, PAUSING, RETAINING A SITUATION.
- I TRAVELLING, LOCOMOTION. MAY BE WALKING, RUNNING, CRAWLING, ROLLING, SLIDING.
- ⊖ JUMPING, ELEVATION. TAKING OFF - FLIGHT - LANDING.
- ◁ ▷ TURNING, ROTATING.
- ◁ ▷ TWISTING, ROTATING BUT WITH ONE FIXED END. MAY BE TWISTING TOWARD, TWISTING LEGS IN/OUT, ROTATING ARM.
- DEEP LEVEL, LOWER DOWN DEEPER THAN NORMAL STANDING. MAY BE PLIE, CROUCHING, KNEELING, LYING DOWN.
- MEDIUM LEVEL, GO INTO MEDIUM LEVEL (AS IN NORMAL STANDING). MAY BE A RISING / LOWERING ACTION.
- ▨ HIGH LEVEL, HIGHER THAN NORMAL STANDING. MAY BE RELEVÉ, OR OTHER WAY OF RISING INTO HIGH LEVEL.
- └ TRANSFERRING THE WEIGHT TO SUPPORT ON BODY PART OR SOMEONE / OBJECT. MAY BE LUNGE, HANDSTAND, SUPPORT.
- ⊕ GESTURING (GENERAL, UNSPECIFIED): NO TRANSFERENCE OF WEIGHT. CAN BE APPLIED TO ANY BODY PART.
- ⌈ A SCATTERING GESTURE, FROM THE CENTRE OF THE BODY / BODY PART AND OUTWARD.
- ⌋ A GATHERING GESTURE, TOWARDS THE CENTRE OF THE BODY / BODY PART.
- ∨ CONTRACTING, BENDING, CURVING IN, SHRINKING. MAY OVERLAP WITH ■ AS IN CROUCHING. MAY BE MAKING A FIST.
- ∨ STRETCHING, EXTENDING, RISING, LENGTHENING. MAY BE REACHING OUT, STRETCHING THE SPINE / LEGS / ARMS. MAY OVERLAP WITH □.
- ⊙ OVER BALANCING, FALLING, MOVING BEYOND THE SUPPORT. MAY BE TOMBE.
- ◁ INCLINING, MOVING TO ANOTHER DIRECTION FROM ONE JOINT, NOT BENDING OR STRETCHING BUT LEANING.

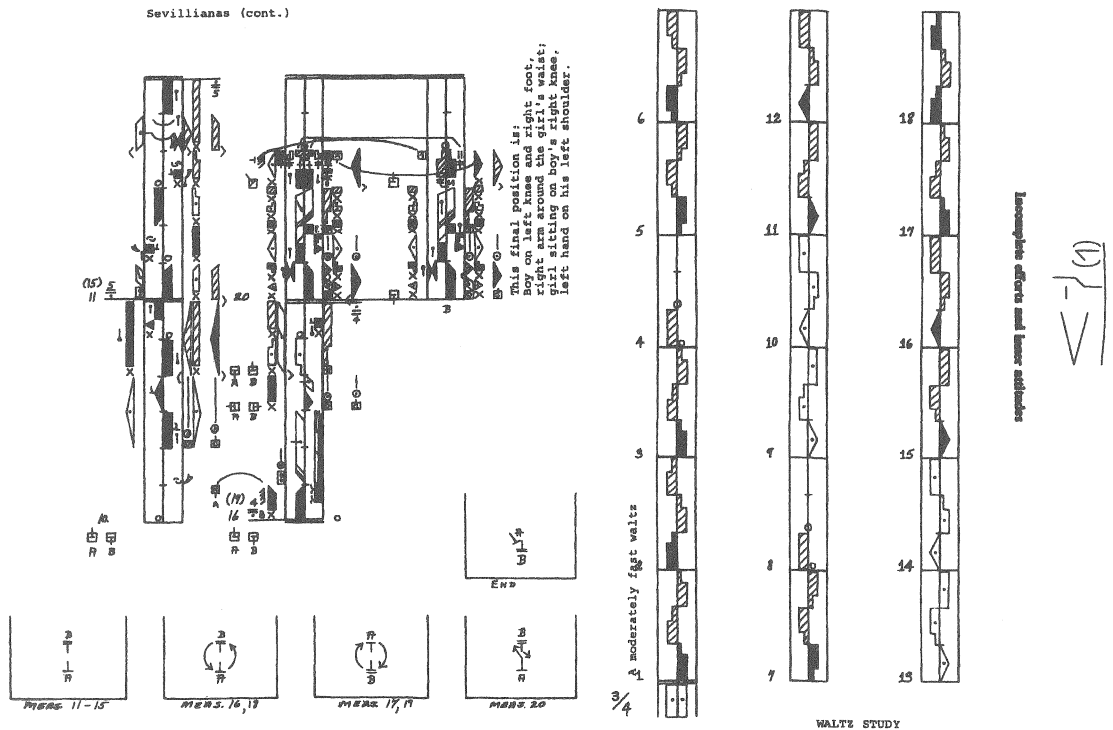
(図2)

ACTIONS AND BODY PARTS



(図3)

一試験内容／5要素を使用した運動分析から音・衣装・歴史的背景までを土台とした「レ・ノース」の作品分析のレポート。その一部を抜粋し、ノーテーション（図4／舞踊記譜法）に表す。シンボルを使用した小作品。ミニマルチェンジやレピティションを使用した小作品等提示された課題から選択し、提出または発表を行う。



(図 4)

<レベル II >

TERM 3 : 「媒体のより大きな問題へ移る。媒体の本質に関する討論へと拡大していく。何がダンス媒体の境界線になるのか。それらは混在しているのか、変動するのか。いかに媒体に対する Choreographer の態度は独特の様式を定義できるのか。いかに今日の Choreographer はダンス媒体を使うことができるのか。ビデオダンスとはなにか。その上、観客のダンス知覚について討論することを含む。」<sup>1)</sup>

－具体的内容／当代の著名な Choreographer (W. フォーサイズやトワイラ・サーブ等) が紹介され、その手法を踏襲した創作実習が行われた。ビデオ・カメラの機能を利用し通常では作れない空間や運動効果を作り出す実習も行った。

－試験内容／日常動作のリズミカライゼーション・サンドイッチ形式などを用いてビデオダンスを作成し、口頭で内容について説明を行うというものであった。

2. 適応の可能性

各 TERM の内容について概観してきたが、TERM によってはかなり高度な内容が準備されていた。本学の教員養成課程の学生に適応可能と考えられる内容については、TERM 1 の内容から次のような可能性が考えられた。

- (1) 簡単な運動に5の要素を加味したり、組合せを変えたりすることにより、より複雑で個人の習慣を壊した新しい運動を容易に導き出すことができる。
- (2) 運動の変化・発展を容易にする。
- (3) 基礎的なノーテーションを指導し、運動に関する意識を深める。
- (4) 現象を5要素の視点で観察することによって、表現的運動を発見することを容易にする。

＝可能性1に関する実践＝

大貫<sup>9)</sup>の提唱する、運動の構造面に関心・創意・工夫を傾注し、「形式の妙」への追求をめざす指導と共通している。中学生以下の内面の表出を厭う学生たちにとって、各5要素の下位項目の組合せ課題を設定し、ユニークでしかも自己の運動慣習を解体するような運動の探究をめざす授業も成立する可能性があると考えられる。以下は「形式の妙」（抽象的な運動で組み立てられた作品）までは到達していないが、内容（イメージや表現したい内容）から運動を引き出すイメージ学習とは異なり、与えられた運動課題の組合せから内容を導き出す方法についての実践を示したものである。（資料1）

目的：運動の5要素の中から「関係性」を取り上げ、創作することへの肯定的態度の育成や創作技術の向上をめざす。

方法：一時間2項目の課題を提示し、その組合せから運動を探究し、出来上がった運動シーケンスから内容を導き出す。

対象：平成10年度鹿児島県学校体育女子体育研究会夏期研修会参加の高等学校教員  
及び鹿児島県立鶴丸高等学校一年生

期日：平成10年7～8月

表1に示されるように、「おもしろかった。楽しかった。自分を表現できた等」肯定的な感想が述べられている。このことはイメージ学習と呼ばれる（内容から運動を引き出す。）とは逆の方向からの表現へのアプローチであること。また、同方向からのアプローチである運動課題（簡単な運動の組合せから内容を導き出す－走る＋止まる＋転がる等）とは異なる課題であり、簡単で思いがけない課題（二人で近づき方や支え合う方法を考える等）であることから取り組み安さや自分にも表現できるという達成感を感じることができたものと考えられる。

### －資料1－

女子体育研究会夏期研修会資料

平成10年8月4日（火）

## 関係性に着目して

～探そう 私たちのいい関係～

鶴丸高等学校 吉元鈴代

1. 単元 ダンス

2. 特性

- (1) 自己の内面を身体の動きに結びつけることによって、感情を豊かにしたり、想像性・創造性豊かな人間を創ることができる。
- (2) ダンスの経験を通して自分の思ったことを表現できるようになったりまた、仲間のアイデア

や考え方を知るようになる。

### 3. 学習にねらい

運動の5要素<動作・空間・関係・力性・身体>の中の関係性<RELATION-SHIP>に着目して与えられた課題を追求する中で創る楽しさを知る。

時間	課題	この課題での動きの例	変化・発展
1	①近づき方 Address	*直線的に・・・ *曲線的に・・・ *角度のある動き *螺旋状に・・・	二人の関係を・・・ *身体・空間・動作・力性を生かしながら課題を強調する。
2	②取り巻く Surround	*相手(お互い)を見つめながら *相手(お互い)を無視しながら *相手を触らずに *相手の身体のどこかを触りながら *取り巻きながら相手に絡む	②の課題を生かしながら①の変化・発展と同様な動きをする。
3	③触れる Touch	*ちょっと触ってみる *触りながら絡まる。	③の課題を生かしながら前時で経験した課題①または、②の好きな方と組み合わせてフレーズを創る。
4	④支える Support	*相手の重さを知る。 *身体の部位を支える。	いろいろな身体部位で、様々な倒れ方・支え方を考える。①～③の中から、課題と組み合わせ、ひと流れの動きを創る。
5	⑤持ち上げる 運ぶ Lift & Carry	*いろいろな形で持ち上げる *いろいろな方法で運ぶ	いろんなイメージで課題⑤を生かす ①～④の課題を5人程度のグループをつくり好きなものと組み合わせてひと流れの動きを創る。
6 / 7	関係性課題の組み合わせ	* (①+③) + (②+④) + ⑤	( ) を32拍のフレーズでまとめる。
8 / 12	作品づくり	*関係性の課題を生かす *テーマを決定する *仲間と協力して創作する	口リズムやデッサンなどでテーマを突き詰めてモチーフを決めフレーズを創る。 仲間の協力や話し合いによって変化発展していく。
13	発表会・作品鑑賞・評価、反省		

### 4. 指導計画 一年生 2 学期

### 5. 本時の実際

(1) 指導区分 4 / 13

(2) 本時の目標

ア. 運動の課題「支える」を手がかりにして、仲間と協力して、動きをより个性的に探究する楽しさを味わうことができる。

イ. 限られたスペースを仲間と一緒に動くことで、自分や他人のスペースを意識することができ、調和的な対人関係形成の基礎づくりをすることができる。

段階	学 習 内 容	教 示 ・ 発 展
導入 13分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶 出欠点検</li> <li>・ウォームアップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装・姿勢を正し、元気よく挨拶させる。</li> <li>1. 身体と同様に心もほぐさせる。その中で、イメージを出し、展開しやすいように心と体をチューニングさせる。</li> <li>2. 本時はバルーンを想像し、その中で極限性・多様化・速度の変化などを感じながら体をほぐす。</li> </ul>
展 開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の課題を確認させる。＜関係性から二人組みで課題「支える」を使って動く＞</li> <li>・見せ合い 2グループ程度で見せ合いをする。</li> <li>・タイトルをつけ合う 〔何に見えたか話し合う〕</li> <li>①～③の課題と組み合わせでフレーズを創る。</li> <li>・見せ合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの身体の重さを確認させる。</li> <li>・いろいろな身体部位で、様々な倒れ方・支え方を考えさせる。＜身体や力性を加えながらおもしろい支え方を探究する。＞</li> <li>・一番気に入った支えたポーズを3～4つ発見させる。</li> <li>・楽しい雰囲気の中で動きを見せ合う。(2グループで)</li> <li>・仲間の動きを見ることは意欲を高めることのできる大切な活動であることを知らせる。</li> <li>【決まったポーズのイメージからタイトルをつける。】</li> <li>①～③の好きな課題と組み合わせ、ひと流れの動きを創る。(32拍程度)</li> <li>・具体的に例を示しながら説明することによって、課題に対して興味・関心を高めさせる。</li> <li>・(ダンスノートに口リズムや動きなどをデッサンさせながらすすめさせる)</li> <li>・ひと流れの動きにまとまったら繰り返し練習させる。</li> <li>・グループごとに助言する。</li> <li>・自分のグループの個性・仲間のグループの個性に気づかせる。創作した動きから表現内容を引き出す。</li> <li>・自分の能力を出しきって精一杯動いているかどうか評価する。</li> </ul>
ま と め 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の反省と次時の連絡</li> <li>・挨拶・後始末</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の感想をまとめさせる。</li> <li>・印象に残ったことを発表させる。</li> <li>・次時の確認をさせる。</li> <li>・挨拶をさせる。後始末をしっかりさせる。</li> </ul>





表 2

		DANCE			audience development	
		NOTEMENT	SPACE	SOUND	PERFORMER	AUDIENCE
		5 Structural components of medium				
what	action	action in the body	locomotion/stepping/jumping/turning/gesture/stillness			
		spatial action	sinking-rising/advancing-retreating/opening-closing			
body		body in action	whole body/body parts/joints/surfaces			
		body shape	wide-narrow/big-small/straight-curved/twisted			
		body flow	successive-simultaneous			
		organization in body	symmetrical/Asymmetrical			
where		levels	high/medium/low			
		directions	up-down/forward-backward/right-left/diagonals			
		distance	near/medium/far			
		pathway	straight/curved/angular/looped			

		rhythmic-organization	
how	dynamics	phrasing	long short/impulsive-impactive/swing/accented-non./
		timing	metric-non metric/tempo-speed/
with whom		effort (quality)	weight-space-time-flow
		proximity	near-medium-far
		orientation	facing/back to back/beside
		time	unison/canon
		touch/lift	

ACTION.....動き方-動作の経路等

@direction

@size

@level

@dynamics /time

@body parts/support

GESTURE-nonverbal.....非言語的表現  
 scatter ..... 舞群がバラバラになる。  
 gather ..... 舞群がまとまる。  
 contract ..... 凝縮する。  
 extend ..... 伸延。  
 bend ..... 曲がる。  
 twist ..... 捻る。  
 lean/tilt ..... 傾く。

表 3

回数	授業内容	具体的内容
1	オリエンテーション／表現とは？	
	準備運動	●即興 ◎指導者の模倣。 ◎ゲーム感覚でお互いに。
3		◎運動を繋いで。 走る＋跳ぶ／走る＋止まる／跳ぶ＋転がる ／走＋跳＋転＋止（速）4つを連続して／
5		◎運動の順番を入れ替えて ◎ポーズからリズムへ・フレーズへ
7		●空間論 ◎与えられたテーマを運動のリズムへ ◎その表現運動（リズム）を一番生かす空間 処理は？
9		●運動分析論 ◎前回の表現運動を変化・発展させてみよう。 チェックリストを使用して。印象も強調さ れるように。
		●形式論 ◎作品の基本的なまとめ方とは？
11		●作品創作 ◎しっかり自分を見つめて／友達もみつめて ／周囲も運動的視点で観察しよう。
13	準備運動	●学内発表会 ◎全員参加！ 文化ホールをめざそう。

画している。

授業実施後の調査の結果、各グループ約2～5項目（5要素の下位項目）を用いた変化・発展が可能であった。また、その後チェックリストを用いた運動分析と運動変化についての自由記述をまとめると表4のような結果が得られた。表に示すように8割強の学生が肯定的反応を示している。

体育科学生や舞踊専攻生と異なり本学学生は舞踊経験が浅く、豊富な運動イメージや十分な舞踊表現技術を持ち合わせているとはいえない。しかし、将来舞踊指導を担当するしなければならない教員養成課程の学生にとって、運動の構造を学び、その知識を土台に日常から自己の思想にいたる身の回りの現象を運動分析的視点で観察できる、あるいは意識化できることを示すことが重要であると考えられる。そのために運動構造を意識化できるこの5要素を用いたリストは有効に機能すると考えられる。また、このリストを利用する方法だけでなく、簡単な運動シンボルを用いる可能性3に関する方法もこの延長線上に存在しうると思われる。

無論、「～になりきる。」模倣・変身を中心とした指導のあり方も対象に応じて、その有効性は周知のことである。感情は舞踊創作の衝動になる。が、それを表現する時には、私以外の他者に自己の心的内容を知覚してもらうために、主観的感情の客観分析的が必要とされると考えられる。そのためにも運動分析的視点は有効なツールとなりうるとToby Hankin<sup>10)</sup>も述べている。また、Kate Hrrisonは空間意識等は自然に起こるといふより指導されるべき内容であるとしている。<sup>3)</sup>同様な実践として三浦はその

表 4

N=298 (出現総数)

肯定的反応	人	人	%
多様な運動への気付き			
・多様な運動があることへの気付きや驚き, 感動	40	40	13.4%
創作の楽しさへの気付き。			
・発想拡大/発見への気付き。	35	113	37.9%
・考えることや創作の楽しさ, おもしろさへの気付き。	28		
・個々人の可能性や個性への気付きと賛美。	3		
・何を学んでいるかの理解と達成感。 (分かった。/勉強になった。)	28		
・創作への意欲	4		
・創作や発展への有用感。(役立つ/役立つであろう)	15		
運動と表現の関係への気付き			
・イメージが変化したことへの気付きや驚きと感動。	35	94	31.5%
・思い通りの表現への達成感。	17		
・より良い表現へ変化したことへの満足感。	42		
否定的反応			
・難しかった。	28	35	11.7%
・良く理解できなかった。/うまく使えなかった。	5		
・使わなかった。	1		
・やりにくかった。	1		
・無回答	16	16	5.4%

著書のなかに「個性的な動きの工夫へ導くために」として類似した表(表5)<sup>7)</sup>を掲載している。また、小学生中・高学年向けへのはなびらの形をした「動き工夫のしかた」(図5)<sup>8)</sup>の資料を提示している。

表 5

V. 個性的な動きの工夫へ導くために

運動を変化する要因には、次の図に示すように、身体性、空間性、時間性、力性、集団性がある。これらは、感じを強調したり、ユニークな動きを工夫するときの視点となる。

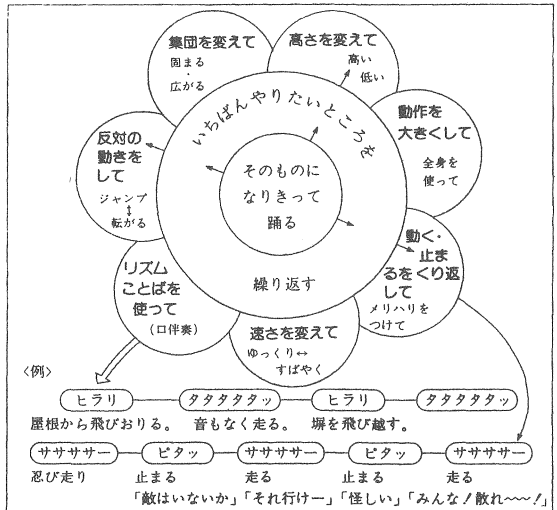
<b>身体</b> 身体性 身体形：直線的、曲線的、丸まった、伸びた、ねじれた、対称的、非対称的 全身：頭、肩、ひじ、胸、腕、脚、腰、足、手、指 部分：腕、手、指 身体部位：前向き、後ろ向き、斜め前、後ろ 身体面：斜め前、後ろ、左右横	<b>空間</b> 方向： 上 斜め後ろ 後ろ 斜め後ろ 斜め前 前 斜め前 下 斜め前 前 斜め前 左横 右横 高さ：高い—中位—低い—床面 大きさ：大きい—小さい 遠い—近い 経路：直線—曲線、単純—複雑
<b>運動</b> 人数：ソロ、デュオ、トリオ、小グループ、大グループ、人数の増減 隊形：1群、2群、3群、自由円、弧、列、分散、密集 対応：同じ動き(ユニゾン)、調和(感じの似た違う動きで、ハーモニー)、対比(反対要素で引き立てる、コントラスト)、輪唱のように(カノン)、交互に(交互に動く)	<b>力</b> 強い—弱い 急激—断続—持続的 引き締めた—緩めた テンポ：速い—中庸—遅い 拍子：2、3、4、6、無拍子等 リズム：均等—不均等、リズムパターン フレーズ：短いまとまり、力の起伏
<b>集団</b>	<b>時間</b>

運動は、身体性、空間性、時間性、力性、集団性を変化させることによって、無限といえるほどの変化が生みだされる。感じが強められない、平凡だ、変化がつけられないなどの、問題解決活動の助言の視点となる。

210 | V. 個性的な動きの工夫へ導くために

(1) 「動きの工夫のしかた」の資料

ねらい2の活動に入って、自分たちの表現したいイメージを強調する方法がよくわからない子どもや、毎時の「めあて」が見つけれない子どもたちのために、下図のような資料を用意しておく。この資料から、グループの工夫する視点を自由に選び、作品づくりをしていくと、学習経験の多少にかかわらず、表現したいイメージや内容をよく伝えることができるようになる。



※表現したいイメージを強めるのにいちばん重要なことは、「そのものになりきって踊る」ことであるので、花の中心にしてある。  
 ※花の中心から外側へいくほど、動きの工夫のポイントが細かくなっている。

図 5

＝可能性 4 に関する実践＝

5 要素を用いた「動きのチェックリスト」を、表現的運動の探求に使用する授業の試みを以下にあげておきたい。(資料 2)

期 日：平成10年 6 月

対 象：鹿児島市立伊敷中学校 3 年生

目 的：内面の外面化に抵抗のある中学生に、5 要素を用いた「動きのチェックリスト」を用い、創作ダンスへの肯定的態度と舞踊表現技術の向上を目的とした。

方 法：表現内容を抽出しやすい「タイトル (題名)」<sup>4)</sup>を準備し各グループごとに選択する方法をとった。この選択したタイトルから表現内容や運動題材を選択し内容にふさわしい運動をリストから選択して創作することを課題とした。

感想からも読み取れるように、難しいとしながらも授業が進むにつれ、多様な運動が発見でき楽しさがまわっているようである。少数の例で結論付けることは避けなければならないが、限られた時間のなかでの運動体験しかもてない一般の生徒にとって、運動の構造を意識してその組合せを探求し、よりの確な表現へ取り組むことは、その創作を推進し、表現の楽しさへ導く一歩であると考えられる。<sup>2)</sup>



授業細案

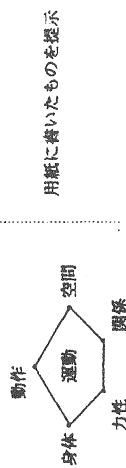
ダンスノート

ダンスノート

班員	年 組 班名
選んだことば ( )	
空想したことば ( )	
一番表した内容 ( )	
選んだチエックリストカード	
感想	
反省	
先生から	

1. 板書計画

- ① 「ことば」の提示  
「ヘイ! 彼女!」  
「やっばり、だめだった」  
「キヤー、やっなあ!」  
「お願ひ、わかって」  
「ムカつくう!」  
「チヨベリバー!」  
「うきうき、ルンレン!」  
フラッシュカードで提示
- ② 本時の目標の確認 「心」を表現してみよう! 板書
- ③ 運動の構成要素



2. チェックリスト

- 【動作】
    - ・後動
    - ・ジャンプ(回転)
    - ・伸びる→縮む
    - ・面ける
    - ・ねじる
    - ・倒す
    - ・静止
  - 【身体】
    - ・全身
    - ・身体の一部
    - ・腕部
    - ・膝部
    - ・血縁的な形
    - ・曲線的な形
    - ・対称的→非対称的
  - 【空間】
    - ・高い→低い
    - ・左→右
    - ・前→後
    - ・前方→後方
    - ・近い→遠い
    - ・直線的→曲線的(空間)
    - ・定期的→不規則的
  - 【力性】
    - ・最初にアクセント
    - ・最後にアクセント
    - ・中間にアクセント
    - ・強い(強い)→弱い
    - ・急に動く→止まる
- 内的モチーフ:  
運動モチーフ:  
題名:  
題材:



表 6

(反省)	言葉のイメージ、動作の、おどろかされたこと、以外に 難しかった。でも、この動きが自分では、単純なものだ てきた。それに、空間を使って、動き回った。上下の高さが 変りして、面白い作品ができた。
(反省)	とてもたのしかった。 しかし、は頭の中にラグ、スリな気がしたけど きちんとしたのかわらなくてよかった。
(反省)	自分なりにダンスが楽しく、スムーズに動いてよかったです。 動きの要素から取り出して空間や動きがうまくいったので良かった。
(反省)	題はうきうきとした感じに「けど」遠足に行く表現を 作りに作ったけどあまり表現の仕方が悪いのか はかった。でも、動きの要素を見ていううちにこれはいい とこういうのがいいつけた。
(反省)	おもしろで、楽しいダンスができてよかった。 動きの要素がしりつがえた。
	言葉のあらさがしがあった。 <u>~~~~~</u>

#### 4. おわりに

本研究では、限られた時間の中で指導者としての資質向上が求められている教員養成課程の学生を中心に、Basic Laban Study (Choreological Study I・II) から導き出された可能性が指導者としての資質の向上や表現運動・創作ダンスの指導法としての効果的であるか否かその可能性を検討した。その中でラバンの運動の5要素を用い、運動の持つ豊かな可能性に気づくことやそれらを主体的に組み合わせることにより、短時間で豊かな表現力を身に付けることができる方法(可能性2)は適応可能と考えられる。他の可能性については、今後の実践や実証をさらに継続する必要があると考えられる。



### 引用・参考文献

- 1) Ana Sanchez-Corberg (prepared) : Introduction to Choreological studies, Laban Centre for Movement and Dance (document), 94/95
- 2) John Hodgson & Valerie Preston-Dunlop : Laban's ideas on Movement, His concept of choreology.  
ーラバンにとって「動き」とは、ラバンが考える「コレオロジー」とはー 大貫秀明訳 東京ドイツ文化センター pp50～57 1996
- 3) Kate Harrison : Let's Dance ーThe Place of Dance in the Primary Schoolー p46 Hodder & Stoughton 1993
- 4) 川添まり子 : 「現代生徒気質」ー様々な心の動きを、リストを使って発見しよう！ー鹿児島県学校体育女子体育研修会秋期研修会資料 1996
- 5) 小松恵理子 : 「英国ラバンセンターでの一年ー効果的な指導法を模索して」体育の科学 第46巻 3号 pp 253～256 1996
- 6) 小松恵理子 : 「舞踊の効果的指導法の研究ー日英のナショナル・カリキュラムにおける学習内容の比較を通してー」鹿児島女子短期大学 紀要32号 pp23～38 1997
- 7) 三浦弓枝編著 : 「ダンスの学習指導」光文書院 p210 1994
- \* ) 前掲書 : p 112
- 9) 大貫秀明 : 『「表現」という呪縛ーダンス教育を一考する』第46回日本体育学会大会号 1995 群馬大学
- 10) Toby Hankin : Laban Movement Analysis In Dance Education, JOPERD, Nov/Dec, 1984
- 11) 吉元鈴代 : 関係性に着目して～探そう 私たちのいい関係～ 鹿児島県学校体育女子体育研究会夏期研修会資料 1998